

2 今福遺跡における彫器について

国際文化財株式会社 調査員 鶴久森彬

1. はじめに

本遺跡において、縄文後晩期の彫器が 32 点出土している。製品の中では、剥片鏃の 33 点に次ぐ数量であり、本遺跡の石器群の中で重要な要素となっている。本遺跡出土の彫器は、②区Ⅲ層（本編における「②区縄文時代遺物包含層(Ⅲ層)」）から 31 点（縄文後期中葉）と⑥区Ⅳ層（本編における「⑥区縄文時代遺物包含層(Ⅳb層)」）から 1 点（縄文後期前葉～晩期）出土しており、共伴する土器型式から縄文後晩期に属するものと思われる。また、周辺遺跡において、一遺跡内で 30 点を越す彫器を出土する遺跡が存在しないことから、本遺跡出土彫器が極めて特殊であることが分かる。したがって、本稿では、本遺跡出土彫器の形態的特徴と組成、周辺遺跡出土彫器との比較分析を通して、縄文後晩期の彫器について概観し、松浦市域における縄文後晩期の石器生産の一端を明らかにしたい。なお、本稿の本文・表で使用した②区Ⅲ層の遺物は同層出土品の内ドット取り上げ分である。

2. 研究略史

縄文時代における彫器の研究としては、橘昌信による先駆的な研究がある（橘 1982）。西北九州の縄文時代の彫器に対し技術形態学的視点から、後期旧石器時代の彫器と同様であるものが存在するとしながらも、系統的には不明であるとしている。また、資料数では縄文後晩期が圧倒的に多く、素材剥片の大半が黒曜石の縦長剥片を用いていることから、縦長剥片石器文化の石器群の一要素として位置づけている。

縄文時代における彫器の機能的研究はみられないが、近年、後期旧石器時代の彫器の機能について使用痕分析から興味深い結果が得られている（岩瀬 2012）。それは、杉久保石器群に伴う彫器（神山型彫器）と荒屋型彫器という 2 つの時間差をもつ彫器から、それぞれ異なる使用傾向が認められるという結果である。したがって、当該期の彫器についても、どのような傾向がみられるか今後の分析が期待される。

3. 形態的特徴

a. 分類

橘によって、彫刀面が作出される位置と彫刀面を設ける際の打面の状態から五類に大別されている。ここでは、橘分類を準用して分析を行いたい。

Ⅰ類：平坦な面を打面として、その一端から槌状剥離を施しているもの。

Ⅱ類：彫刀面を設けるための平坦な打面をもっておらず、彫刀面が素材の一部を斜めに横切っているもの。

Ⅲ類：彫刀面を設けるための打面に調整の剥離が施されているもの。

Ⅳ類：槌状剥離の打面形成が、槌状剥離面と反対の方向からの槌状剥離によって準備されているもの。

Ⅴ類：彫刀面が主要剥離面側に大きくねじれているもの。

本遺跡における彫器は、Ⅰ類：②区 6 点、Ⅱ類：②区 1 点、Ⅲ類：②区 15 点、Ⅳ類：②区 5 点、Ⅴ類：②区 1 点、⑥区 1 点、Ⅰ類＋Ⅲ類：②区 2 点、Ⅲ類＋Ⅳ類：②区 1 点に分類できる（表 1）。特徴としては、Ⅲ類が半数を占めること、Ⅰ類＋Ⅲ類、Ⅲ類＋Ⅳ類といった、異なる類型同士が複合するものが認められた。

b. 大きさと素材の選択傾向

次に各類型と大きさの関係について分析を行った（図 1）。長さ 50mm 前後、幅 20mm 前後に集中する傾向が認められる。これらの大半は、鈴桶型石刃を素材としている。また、Ⅲ類、Ⅳ類、Ⅴ類には、長さ 50mm 以上のものが認められ、鈴桶型石刃を素材としている。したがって、彫器と鈴桶技法との間には深い関係があることが理解できる。また、大きさについては、長さ 50mm 以上の彫器には、少なくともそれ以上の大きさの素材剥片を用いていることが考えられる。本遺跡出土の鈴桶型石刃石核の作業面の長さは 31～49mm であること⁽¹⁾、長さ 50mm 以上の彫器はいずれも鈴桶型石刃素材であることから、原産地遺跡である佐賀県伊万里市鈴桶遺跡と消費地である本遺跡との流通関係、あるいは、時期差が関係しているものと思われる⁽²⁾。

4. 組成

a. 石器組成

本遺跡における石器組成は次の通りである（表 2）。②区Ⅲ層では彫器をはじめ、剥片鏃、つまみ形石器といった、鈴桶技法関連の石器が一定量認められ、さらに、②区Ⅲ層の石核の中には鈴桶型石刃石核が認められる。⑥区Ⅳ層では、彫器、剥片鏃、つまみ形石器が殆ど無い。両調査区共に一定量認められる、二次加工剥片、使用痕剥片、剥片についても、鈴桶型石刃の比率をみると②区に偏る傾向が認められる（表 3・4）。

b. 石材別の石器組成

本遺跡における石材別の石器組成は次の通りである（表 5）。②区Ⅲ層で定形的な石器が全て黒曜石製、不定形の石器の大半を黒曜石製が占め、一部安山岩が混じる。⑥区Ⅳ層では、定形的な石器、不定形の石器共に黒曜石製が大半を占めながら、安山岩、赤色火山岩⁽³⁾が混じる。この両調査区の石材利用傾向の違いは、先述した鈴桶技法関連の比率の違いと深く関係し、鈴桶技法の盛衰という時期差を示している可能性が考えられる。しかしながら、②区Ⅲ層は

共伴する土器から縄文時代後期中葉として位置付けることが出来るが、⑥区Ⅳ層は縄文時代後期前葉から縄文時代晩期までの土器が出土していることから、時期を限定することが出来ない。

5. 松浦市域における彫器

ここでは、周辺遺跡出土彫器を概観し、本遺跡出土彫器と比較していきたい。

後期旧石器時代の彫器と縄文時代の彫器の系統性が不明であることから、時代を問わず彫器⁽⁴⁾として報告されているもの全てを集成した(図2～4・表6)。

松浦市域における彫器は、9遺跡(今福・辻ノ尾・宮ノ下リ・明賀谷・中野・田川・田原・下田・下谷)57点(今福:32点・辻ノ尾:1点・宮ノ下リ:4点・明賀谷:2点・中野:4点・田川:3点・田原:1点・下田:1点・下谷:9点)⁽⁵⁾を数える。

彫器として報告されているものの大半は、後世の遺物と混在して出土しているものか、或いは表採したものであることから、所属する時期はある程度の時間幅の中で考慮する必要がある。一方で、時期が概ね限定されるものは、本遺跡の32点と下谷遺跡の9点で、いずれも縄文時代後晩期に属するものである。

その両遺跡には共通点を見出すことができる。本遺跡②区と下谷遺跡(図4-17～22)からは、縄文時代後期の彫器と伴に剥片鏃、つまみ形石器、鈴桶型石刃、鈴桶型石刃石核が出土している点である。技術形態的にも鈴桶型石刃を素材とし、彫刀面を側縁に沿って設けているものが大半であることも共通している。その他の遺跡から出土した彫器については、時期が限定できない為、鈴桶型石刃を素材としたものかとは定かではないが、黒曜石製の縦長の剥片を素材とし、彫刀面を側縁に沿って設けているものが殆どであることから、技術形態的には類似している。

本遺跡とその他の遺跡との相違点については、本遺跡の彫器32点に対し、その他の遺跡では9点以下である点。また、本遺跡では黒曜石製の彫器のみだが、下谷遺跡では安山岩製の彫器が認められる点で異なる。

6. まとめ

本稿では、本遺跡出土彫器の形態的特徴と組成、周辺遺跡出土彫器との比較分析を通して、縄文時代後期の彫器についての特徴を見出すことができた。最後に、本遺跡出土彫器を中心として松浦市域における縄文後晩期の石器生産の課題について言及し、まとめたい。

本遺跡出土彫器は、Ⅰ～Ⅴ類まで認められ、その中でもⅢ類が半数を占める。また、Ⅰ類+Ⅲ類、Ⅲ類+Ⅳ類といった、異なる類型同士が複合するものも認められる。

本遺跡出土彫器の大きさは、長さ50mm前後、幅20mm前後が中心であり、鈴桶型石刃が用いられていることが殆どである。長さ50mm以上の彫器は、全て鈴桶型石刃素材であることから、原産地遺跡である佐賀県伊万里市鈴桶遺跡と消費地である本遺跡との流通関係、或いは、時期差を示しているものと思われる。

本遺跡②区Ⅲ層と⑥区Ⅳ層の組成の比較からは、両調査区の鈴桶技法関連石器の比率と石材利用傾向の違いが、鈴桶技法の盛衰という時期差を示している可能性が考えられ、彫器もその影響を十分に受けているものと思われる。

周辺遺跡出土彫器との比較から、本遺跡②区Ⅲ層出土彫器は、縄文時代後期中葉に限定できる好資料であることが言える。また、一遺跡から彫器32点が出土していることは極めて異例である。松浦市域を離れ福岡県春日市に所在する柏田遺跡から縄文時代後期中葉の彫器20点が出土していることは知られているが、本遺跡では柏田遺跡を上回ったことから異例であることが理解できる。

縄文時代後期中葉に属する本遺跡②区Ⅲ層出土彫器は、剥片鏃、つまみ形石器、鈴桶型石刃、鈴桶型石刃石核と伴に出土している。彫器の中には鈴桶型石刃を素材とし、彫刀面を側縁に沿って設けている(Ⅰ・Ⅲ類)ものが認められる。縄文時代後期に属する下谷遺跡出土彫器(図4-17～22)と特徴が共通していることから、鈴桶技法と深く関係していると言えよう。

一方で、所属時期が判然としない彫器については、技術形態的に類似している彫器が系統性を示すものか、縄文時代後期の彫器であることを示すものなのかは不明と言わざるを得ない。また、安山岩製の彫器が時期差を示すものかについても不明である。縄文時代晩期の彫器についても分析に耐え得るだけの資料数がなく、特徴を見出すまでには至らなかった。今後、地域を広げて分析することと共に、発掘調査による資料数の増加が望まれる。

今回、縄文時代後晩期の彫器の機能については言及できなかったが、本稿で集成した彫器の中には使用痕が認められるものがあつた。今後、分析を通して当該期の彫器の機能が明らかになるものと思われる。

謝辞

本稿の執筆にあたり、別府大学非常勤講師・清水宗昭先生に有益な教示を賜りました。長崎県教育庁・杉原敦史氏には本稿掲載の機会を賜りました。松浦市教育委員会・江上正高氏には松浦市内出土彫器の計測とその成果の公表に関する便宜を賜りました。ここに記して厚く御礼申し上げます。

注

- (1) 石核は、剥片剥離の進行により、本来の作業面の長さよりも短くなっている可能性があり、長さ50mmを超える石刃については、剥片剥離作業初期段階のものとも考えることもできる。しかし、石核及び石刃の観察から打面再生がみられないこと、剥片剥離作業が打面を固定して上下から行われていることから、剥片剥離作業初期段階においても概ね長さ50mmであったと推測される。
- (2) 橘によると、多量の縦長剥片を出土している鈴桶遺跡では長さ5～8cm、柏田遺跡では長さ4～5cm前後の値が求められるようである(橘1978)。これは、原産地から離れると石刃の大きさが小さくなることを示すものである。一方、時期差については、小南により、縄文時代後期の石刃には6cmを超えるものがあるが、縄文時代晩期では

6cmを超えるものが無くなるということが指摘されている(小南 2006)。

- (3) 正式な岩石名と産地が不明であることから、赤色火山岩(仮称)としている。今後、岩石鑑定が望まれる。
- (4) 彫刻刀形石器とされているものも含む。
- (5) 下谷遺跡 3 号貯蔵穴出土彫器については文章のみの報告であり、計測値等は不明である。

引用・参考文献

- 岩瀬 彬 2012 「最終氷期最盛期の本州東半部日本海側地域における石器使用の特徴-杉久保石器群に伴う彫器の使用痕分析-」 『旧石器研究』 8 日本旧石器学会
- 神川めぐみ 2008 「九州の縄文時代後晩期における石刃流通:鈴桶型石刃技法について」 熊本大学社会文化研究 6
- 小南裕一 2006 「鈴桶技法の終焉-九州北半地域を中心として-」 『陶埴』 19 山口県埋蔵文化財センター
- 下川達彌 1984 「長崎県松浦市域における旧石器時代遺跡」 『長崎県北松浦地方の文化』 長崎県立美術館
- 橘 昌信 1978 「剥片石器-西北九州における縄文時代の石器研究(1)-」 『史学論叢』 9 別府大学史学研究会
- 橘 昌信 1982 「彫器-西北九州における縄文時代の石器研究(5)-」 『史学論叢』 13 別府大学史学研究会
- 中田敦之 1987 「下田遺跡」 松浦市文化財調査報告書第 3 集 松浦市教育委員会
- 中田敦之 1989 「宮ノ下り遺跡」 松浦市文化財調査報告書第 5 集 松浦市教育委員会
- 中田敦之 1991 「田原遺跡」 松浦市文化財調査報告書第 10 集 松浦市教育委員会
- 中田敦之・高原愛 1997 「田川遺跡」 松浦市文化財調査報告書第 12 集 松浦市教育委員会
- 中田敦之・明石弘子 2002 「下谷遺跡」 松浦市文化財調査報告書第 18 集 松浦市教育委員会
- 萩原博文 1971 「長崎県松浦市周辺の先土器文化」 『考古学ジャーナル』 59 ニューサイエンス社

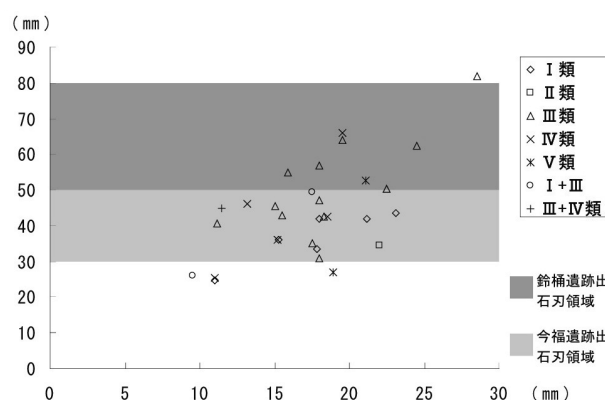


図1 今福遺跡出土彫器長幅比



図2 松浦市域の彫器出土遺跡分布図

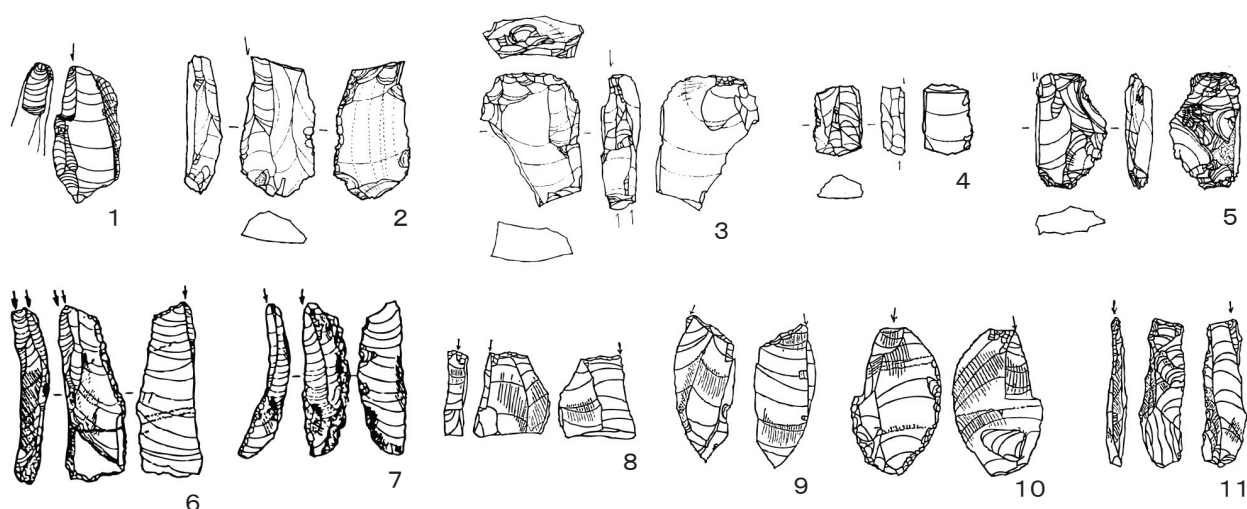


図3 周辺遺跡出土彫器①

S=1/2

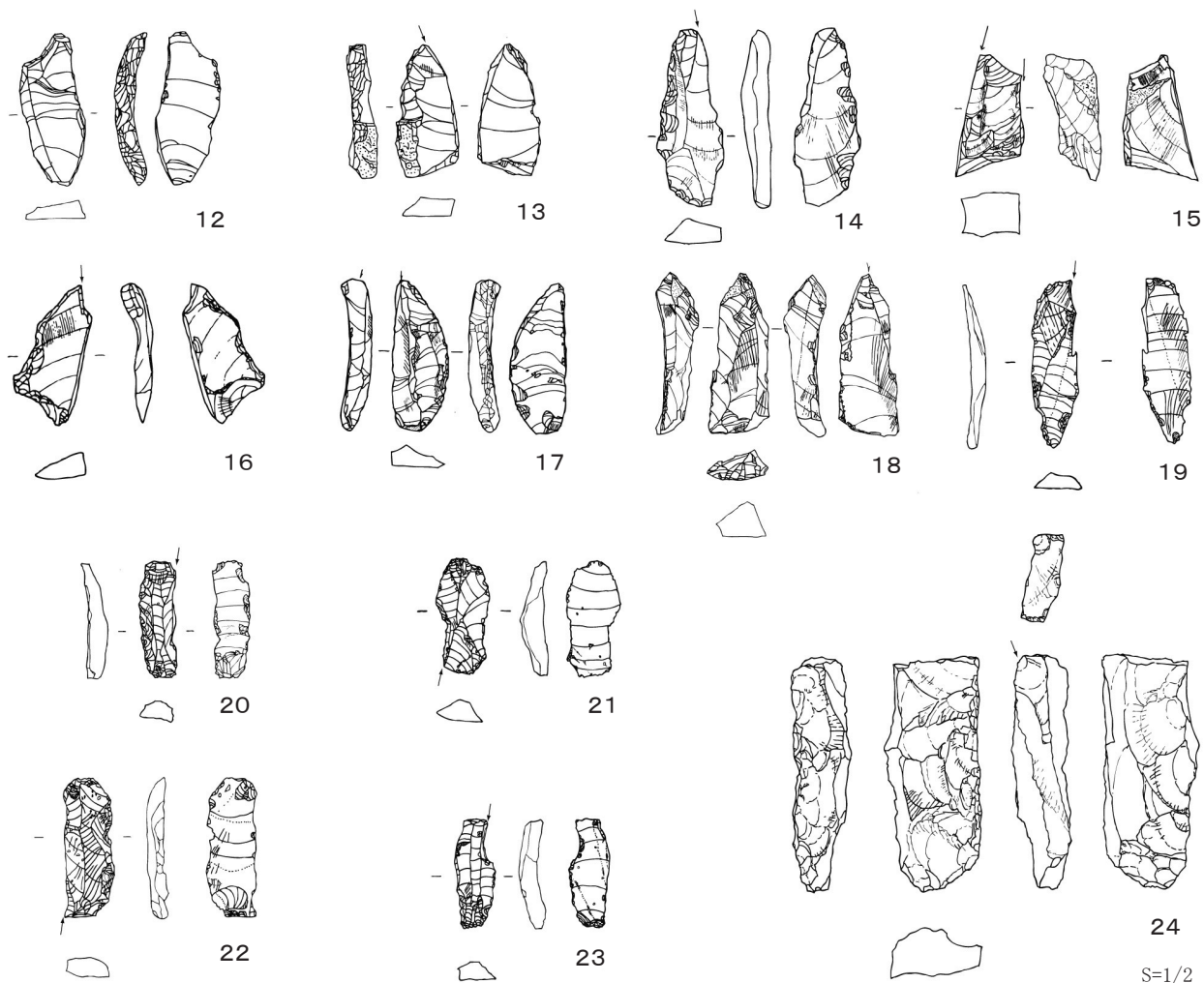


図4 周辺遺跡出土彫器②

表1 今福遺跡出土彫器

実測番号	遺跡名	出土層位	時期	類型	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材	備考	剥片跡	つまみ	石刃	石核
402	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	I	黒曜石	24.6	11.0	5.0	1.27	—	削片の可能性あり	○	○	○	○
403	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	I	黒曜石	33.4	17.8	7.5	3.51	鈴桶		○	○	○	○
405	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	I	黒曜石	36.0	15.3	8.0	4.33	—	使用痕あり。	○	○	○	○
407	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	I	黒曜石	43.5	23.1	8.0	7.81	鈴桶		○	○	○	○
412	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	I	黒曜石	42.0	18.0	4.0	2.96	鈴桶		○	○	○	○
413	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	I	黒曜石	42.0	21.2	4.5	2.81	鈴桶	使用痕あり。	○	○	○	○
411	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	I + Ⅲ	黒曜石	49.5	17.5	11.0	7.35	鈴桶		○	○	○	○
420	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	I + Ⅲ	黒曜石	26.0	9.5	5.0	1.38	—	削片素材か？	○	○	○	○
419	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅱ	黒曜石	34.5	22.0	5.0	3.45	—		○	○	○	○
295	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅲ	黒曜石	82.0	28.5	10.5	12.83	鈴桶		○	○	○	○
404	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅲ	黒曜石	43.0	15.5	7.0	3.29	鈴桶		○	○	○	○
406	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅲ	黒曜石	62.5	24.5	13.5	12.86	鈴桶	使用痕あり。	○	○	○	○
408	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅲ	黒曜石	45.5	15.0	5.5	3.53	鈴桶		○	○	○	○
410	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅲ	黒曜石	42.7	18.3	7.5	4.10	鈴桶		○	○	○	○
414	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅲ	黒曜石	57.0	18.0	8.5	5.51	鈴桶		○	○	○	○
415	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅲ	黒曜石	55.0	15.9	8.5	4.82	鈴桶		○	○	○	○
417	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅲ	黒曜石	35.0	17.5	5.5	1.86	鈴桶	使用痕あり。	○	○	○	○
418	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅲ	黒曜石	61.0	20.5	9.5	14.56	鈴桶		○	○	○	○
422	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅲ	黒曜石	39.0	23.1	6.5	5.24	—		○	○	○	○
423	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅲ	黒曜石	40.5	11.2	5.6	1.73	鈴桶		○	○	○	○
424	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅲ	黒曜石	47.0	18.0	7.0	3.56	鈴桶	使用痕あり。	○	○	○	○
425	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅲ	黒曜石	64.0	19.5	9.0	7.51	鈴桶	使用痕あり。	○	○	○	○
426	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅲ	黒曜石	50.5	22.5	10.0	6.39	鈴桶	使用痕あり。	○	○	○	○
427	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅲ	黒曜石	31.0	18.0	6.0	2.84	—	使用痕あり。	○	○	○	○
416	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅲ + Ⅳ	黒曜石	45.0	11.5	9.0	4.59	鈴桶		○	○	○	○
401	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅳ	黒曜石	46.0	13.2	7.5	2.59	鈴桶		○	○	○	○
409	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅳ	黒曜石	36.0	15.2	7.0	1.83	鈴桶		○	○	○	○
421	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅳ	黒曜石	42.5	18.5	5.5	3.29	鈴桶	使用痕あり。	○	○	○	○
428	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅳ	黒曜石	25.5	11.0	8.0	2.24	—		○	○	○	○
430	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	Ⅳ	黒曜石	66.0	19.5	15.0	8.09	鈴桶	使用痕あり。	○	○	○	○
285	今福遺跡②区	Ⅳ層	縄文後期前葉～晩期	V	黒曜石	52.5	21.1	8.0	8.89	鈴桶		○		○	
429	今福遺跡②区	Ⅲ層	縄文後期中葉	V	黒曜石	27.0	18.9	5.5	2.31	鈴桶		○	○	○	○

S=1/2

表2 石器組成

調査区	石鏃	剥片鏃	尖頭器?	石錐	石匙	つまみ	彫器	スクレーパー	RF	UF	剥片	チップ	石核	石核片	原礫	磨石類	打斧	磨斧	石皿?	砥石	その他	合計
②区Ⅲ層	8	32				26	31	29	238	166	1489	57	34	15	2	2			1			2130
⑥区Ⅳ層	14	1	9	2	4		1	64	90	39	843	77	36	10	5		4	2	1	1	2	1205
合計	22	33	9	2	4	26	32	93	328	205	2332	134	70	25	7	2	4	2	2	1	2	3335

表3 ②区Ⅲ層における鈴桶型石刃の割合

彫器		スクレーパー		RF		UF		剥片	
鈴桶	非鈴桶	鈴桶	非鈴桶	鈴桶	非鈴桶	鈴桶	非鈴桶	鈴桶	非鈴桶
24	7	9	20	137	101	111	55	421	1068
77.4%	22.6%	31.0%	69.0%	57.6%	42.4%	66.9%	33.1%	28.3%	71.7%

表4 ⑥区Ⅳ層における鈴桶型石刃の割合

彫器		RF		UF		剥片	
鈴桶	非鈴桶	鈴桶	非鈴桶	鈴桶	非鈴桶	鈴桶	非鈴桶
1	0	4	86	4	35	6	837
100.0%	0.0%	4.4%	95.6%	10.3%	89.7%	0.7%	99.3%

表5 石材別石器組成

②区Ⅲ層	石鏃	剥片鏃	尖頭器?	石錐	石匙	つまみ	彫器	スクレーパー	RF	UF	剥片	チップ	石核	石核片	原礫	磨石類	打斧	磨斧	石皿?	砥石	その他	合計
黒曜石	8	32				26	31	23	234	165	1421	56	33	15	2							2046
安山岩								6	4	1	68		1									80
結晶片岩																			1			1
砂岩																1						1
不明												1				1						2
合計	8	32				26	31	29	238	166	1489	57	34	15	2	2			1			2130
⑥区Ⅳ層	石鏃	剥片鏃	尖頭器?	石錐	石匙	つまみ	彫器	スクレーパー	RF	UF	剥片	チップ	石核	石核片	原礫	磨石類	打斧	磨斧	石皿?	砥石	その他	合計
黒曜石	14	1	6	1	2		1	33	70	33	430	2	27	7	5							632
安山岩			3		2			31	12	3	149		7	2			2		1			212
赤色火山岩				1					8	3	264	75	2									353
玄武岩																					2	2
蛇紋岩																		1				1
砂岩																				1		1
不明														1			2	1				4
合計	14	1	9	2	4		1	64	90	39	843	77	36	10	5		4	2	1	1	2	1205

表6 松浦市域における彫器

番号	遺跡名	出土層位	時期	類型	石材	長さmm	幅mm	厚さmm	重さmm	素材	備考	剥片鏃	つまみ	石刃	石核
1	辻ノ尾遺跡	表探	旧石器～縄文	I	黒曜石	36.4	17.9	—	—		中世までの遺物が混在				
2	宮ノ下リ遺跡	2～4層	旧石器～縄文	I	黒曜石	37.3	19.4	7.6	5		中世までの遺物が混在	○			
3	宮ノ下リ遺跡	2～4層	旧石器～縄文	I	黒曜石	34.8	24.9	9.9	10		中世までの遺物が混在	○			
4	宮ノ下リ遺跡	不明	旧石器～縄文	I	黒曜石	18.4	12.6	6.2	2		中世までの遺物が混在				
5	宮ノ下リ遺跡	不明	旧石器～縄文	III	黒曜石	31.4	19.0	6.5	4		中世までの遺物が混在				
6	明賀谷遺跡	表探	旧石器～縄文	III	黒曜石	46.4	15.9	7.7	—						
7	明賀谷遺跡	表探	旧石器～縄文	I	黒曜石	40.6	12.0	7.5	—						
8	中野遺跡	表探	旧石器～縄文	III	黒曜石	22.2	19.5	0.5	—						
9	中野遺跡	表探	旧石器～縄文	III	黒曜石	38.2	16.0	—	—						
10	中野遺跡	表探	旧石器～縄文	V	黒曜石	38.8	23.5	—	—						
11	中野遺跡	表探	旧石器～縄文	III	黒曜石	30.0	11.0	4.7	—						
12	田川遺跡	不明	縄文	?	黒曜石	41.9	16.1	5.5	5	鈴桶		○	○	○	○
13	田川遺跡	不明	縄文	II	黒曜石	35.8	17.4	7.4	6	鈴桶		○	○	○	○
14	田川遺跡	不明	縄文	II	黒曜石	49.5	18.9	6.4	6	鈴桶		○	○	○	○
15	田原遺跡	II～IV層	旧石器～縄文	I	黒曜石	37.7	17.5	13.8	9.4		近世までの遺物が混在	○			
16	下田遺跡	表土	旧石器～縄文	II	黒曜石	38.5	22.1	5.5	2.2						
17	下谷遺跡	IV層	縄文後期前葉～後葉	IV	黒曜石	42.5	15.5	8.5	5.2	鈴桶	近世までの遺物が混在	○	○	○	○
18	下谷遺跡	III層	縄文後期前葉～後葉	IV	黒曜石	45.5	17.0	12.0	7.5	鈴桶	近世までの遺物が混在	○	○	○	○
19	下谷遺跡	II～VII層	縄文後期前葉～後葉	III	黒曜石	45.6	13.1	3.3	2.23	鈴桶	近世までの遺物が混在	○	○	○	○
20	下谷遺跡	II～VII層	縄文後期前葉～後葉	I	黒曜石	32.0	10.4	5.7	2.27	鈴桶	近世までの遺物が混在	○	○	○	○
21	下谷遺跡	II～VII層	縄文後期前葉～後葉	I	黒曜石	32.0	15.0	5.1	2.3	鈴桶	近世までの遺物が混在	○	○	○	○
22	下谷遺跡	II～VII層	縄文後期前葉～後葉	I	黒曜石	38.5	13.8	5.0	3.47	鈴桶	近世までの遺物が混在	○	○	○	○
23	下谷遺跡	表探	縄文後晩期?	III	黒曜石	30.8	11.4	5.0	2.1	鈴桶					
24	下谷遺跡	表探	縄文後晩期?	I	安山岩	65.1	27.2	14.4	35.6						

※1・6～11については、実測図より計測